

林産物搬出府縣道改良事業

左右田友三郎

今度静岡縣で戦時必要資源開發府縣道改良ともいふべき道路改良事業が計畫され、緊急を要する路線から順次實施されつゝある特別にこゝに採り上げて云ふ程の事業ではないが、色々の點に於て從來吾々が携つてゐた道路事業とは多分に異なるものを持つた事業であるといふ意味に於て多少の參考となり示唆する處もあるかと思ふのである。第一次事業としてとりあげられたのは次の九路線である。

番號	府縣道路線名	施工場所	延長	幅員	工費
1	西渡中部天龍停車場線	磐田郡	三、五〇〇 米	四・五 米	二、〇〇〇 圓
2	梅ヶ島静岡線	安倍郡	二、四〇〇 米	四・五 米	一、七〇〇 圓
3	東川根島田線	志太郡	一、五〇〇 米	四・五 米	六〇〇 圓
4	大和田森線	小笠郡	六、二〇〇 米		三、〇〇〇 圓

5	澁川都田停車場線	引佐郡	四、七〇〇 米	四・五 米	二、四〇〇 圓
6	井川静岡線	安倍郡	三、〇〇〇 米	四・五 米	一、三〇〇 圓
7	森犬居線	周智郡	一、八〇〇 米	五・五 米	四〇〇 圓
8	家山森線	周智郡	六、五〇〇 米	四・五 米	三、五〇〇 圓
9	堀之内森線	周智郡	七、二〇〇 米	四・五 米	三、〇〇〇 圓
計			七、二〇〇 米		三、五〇〇 圓

この内一號三號四號延長二、二〇〇米、工費五、三〇、〇〇〇圓は昭和十八年一月及び二月追加豫算として議決せられ目下工事中に屬するもの、又二號は三月追加計上する豫定にて目下工事中なり、其の他は調査完了をまつて順次追加豫算として計上せられる筈である。

これ等の府縣道は何れも山村と附近停車場とを連絡する幹線道路であつて木材薪炭、就中木材の搬出を主目的として改築するも

のであるが又一面府縣道として認定をたまゝの自轉車も通れぬ
徑で永い間忍んで來た山村の福音である事は從來の府縣道改良の
意義と何等變るものではない。

元來靜岡縣は東は箱根峠から西は濱名湖西の汐見坂に到る二百
餘軒の一號國道を縣内に持ちこれが天龍、大井、安倍、富士の四
大川を横切る等あり、既にこれが改良に投じられたる縣費は一千
七百萬圓餘に上り、尙且下國事業として施工されつゝある事業費
一千三百萬圓餘あり縣財政としては相當の重荷であるが、一號國
道は縣内唯一の幹線でその改良は絶対に急がねばならぬ實狀にあ
つた。従つて自餘の府縣道特に山村道路は殆ど省みる餘裕がなか
つたといふのが現状である、所が大東亞戰爭は從來の都會偏重か
ら農村重視傾向に一轉せしめた。

靜岡縣は日本有数の山林縣であり全國第一位の〇〇材供出縣で
ある到る處が森林の山である、幸か不幸かこれ等の山に達する道
路が無かつた爲に莫大なこれ等の資材が今日まで死蔵せられて居
て今將に國のお役に立つ譯である。今回の事業はこれを搬出せむ
爲に府縣道を改良せむとするものであつて注文通りの資材がいく
らでも出て來ると同時にこれが搬出に要する勞力を著しく節減し
得る效果は現下の國情に照して何物にも替へ難いものがあると思
ふ。

獨り靜岡縣のみならず他府縣に於ても斯様な見地からする府縣

道改良事業を企畫する事を得るならば道路を通じて國家の危急に
貢獻する事大なるものありと思ふのである。

この事業は上記の目的によつて計畫せられたものであるから從
來の府縣道改良事業とは多少異なつた點がある、其の二、三を擧
ぐれば、

(一) 純然たる經濟路道である

最近府縣道改良といへばその殆どが軍に關係の濃い道路である
又經濟に關係なき道路は無い事言をまたないが從來のものは沿道
の福利増進といふ事が主眼とせられてゐたのにこの事業は資材の
運搬が主眼であつて、云はゞ小規模の自動車道路である。

急速且つ絶対に資材を必要とする現情勢下に於ては運賃の輕減
などと云ふ事は第二義的に屬する事柄であるには違ひないが、試
に本計畫に於て運賃輕減の爲の一ヶ年間の利益を計上すれば左の
如くである。

木材伐採計畫に基く一年間の運搬費輕減額表

路線名	延長	工費	運賃輕減額
西渡中部線	三、五〇〇 <small>米</small>	三、〇〇〇,〇〇〇	三、三九〇,〇〇〇 <small>圓</small>
梅ヶ島靜岡線	二、四〇〇	一、七〇〇,〇〇〇	一、六四九,〇〇〇
東川根島田線	一、五〇〇	九〇〇,〇〇〇	三、九〇〇
大和田森線	七、一〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、八八〇

澁川都田線	四、七〇〇	一四〇、〇〇〇	五、〇〇〇
井川静岡線	一六、〇〇〇	三三〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
森犬居線	一、八〇〇	四一〇、〇〇〇	六、〇〇〇
家山森線	六、五〇〇	三三〇、〇〇〇	一四、〇〇〇
堀の内森線	七、二〇〇	三〇七、〇〇〇	三九、〇〇〇
計	六二、九〇〇	三、六六〇、〇〇〇	七六、〇〇〇

この運賃軽減は勢ひ林産物増産傾向を招來するは勿論であり、其の他本計畫實現の曉には輸送量を著しく増強し又造船資材其の他生産力擴充に要する長大材の搬出を可能ならしめ、又從來利用せられざりし間伐材、廢材及薪材を搬出利用する事を得しめる。從來水運によりたるものは搬出時期を制限せられたるも、陸送に代る事により物動計畫通り正確且つ安全に搬出し得る等廣汎なる利益を擧げる事が出来る。

(二) 改築により右から左に効果を發揮する

道路を改築すればそれだけの効果が顯れる事は當然であるが、一般改築道路が比較的徐々に其の効果を發揮するのに對し、この道路は改築直後から最大能率を發揮する事になる、大東亞戰爭勃發後木材薪炭等林産物の所要量が著しく増大した、特に木材の如きは戰爭を勝ち抜く爲には鐵や石炭にも劣らぬ必須資で夫々の伐採計畫に依つて供出せむとしつゝある、この計畫と並行した搬出細路改良事業であるから、これ等道路工事の竣工をまつて雪解け

の奔流の如く計畫通りの林産物がこの道路を通じて一時に流れ出るのである。

(三) 工事は最短期間に竣工せしむ

既に戰爭前に於て物資豊富な山村の道路は開發せられあるのが經濟上當然な歸結であるにも拘らず、これが今日まで未開發のままに死蔵せられある所以のものは、その道路の建設が非常に困難であつたからに起因してゐる、今回計畫せられた道路は何れもかかる性質のもので唯さへ困難な工事である上に大戦下に於て、労働者を集め機材物資の収集を爲すは容易ならざる難澁を覺悟せねばならぬ。かかる惡條件の工事ではあるが、資材搬出の緊急なる國家の要請に應ずる爲には、これ等の工期は極度に短縮せられねばならぬ状況にある、これが爲に特別なものは除き各工事とも工期を十ヶ月以内と定め、地方請負人の能力を考慮して大なる工事は二工區以上に分割請負せしめてゐる、工事期限延長に對する一切の辯解は許されず萬難を克服して遂行せんとするものである。我が國に於ては從來道路構造上に就ては多方面に於て深く研究を遂げられてゐるが、工期を極端に短縮せむとする研究は等閑に付されてゐた。従つて計畫する者も、工事監督の衝に當る者も乃至は請負人もかかる訓練は更に出来てゐない、勿論土工機械も無い斯様な急を要する工事に對しても十數年來の工法を以て最善を盡すより外なき事は誠に遺憾で多々思ひ當る點がある次第である。

(四) 極力物資を使用せぬ

大戦下に於て工を企畫するにあつては吾々が第一に考へねばならぬ事は資材を節約する事であらねばならぬ、然し従來吾々は代用品を粗ひ代用工法を粗ひ、又は工期を延長して資材の獲得を企てた、而して少くも工術上大なる遜色ならむ事を期したのが吾々一般の常識であつて、決戦態勢になりきらぬ難ひが多々あつた。然るに今や運搬道路の改築は一日も忽にするを許さない實状にある。従つて資材不足の爲に工期にささかの影響も及ぼしてはならない。一例を擧ぐれば大盛土の下部に大小の暗渠を埋設せんとするに當り一應セメントや土管を使用する設計にしてあるが施工直前の見透しに依つてはこれを惜氣もなく木樋に變更せむとするものである、定めし五六年後には無駄な補修費とか改良費とか要する結果となるであらう、斯様な工法は道路に携る者に取つては忍び難く悲惨な事には違ひないが現下の情勢から考へてこれが最も妥當な手當であると確信する、これを消極的とか退嬰的とか評するのは當らない、少しく考慮する事に依つてこれが大積極的である事に氣付く筈だ、寧ろ社會のあらゆる部面がこゝまで行かねばならぬと思ふ次第である。

(五) 工事の分量を最小限に止むる事

資材を節約するにも増して深慮せねばならぬ事は努力の節減である事業の目的はどうであつても府縣道の改良である以上道路構

造令の夫々の規格に準じて設計せられねばならぬ事は勿論であるが、使用する努力を最小限に止めんとする條件を満足せしむる爲には勢ひ工事の分量を出来る丈小にする外に方法はない。例を前記第一號及第三號道路西渡中部天龍停車場線にとり、この府縣道は天龍川口より五十軒餘の上流山家村西渡を起點とし天龍川の左岸を遡る事三五〇〇米佐久間村三信鐵道中部天龍停車場に通ずるものにて、その經過地は斷崖絶壁ともいふべき部分が多い、勿論現在は自轉車も通じない又第三號道路は大井川左岸を遡る同じ様な道路である、今各種改築幅員に對する所要工費をみれば次表の如し。

道路全幅員	西渡中部天龍停車場線 純工費	東川根島田線 純工費
四・五乃至三米	二二三、八〇〇	四九、一〇〇
四・五米	二九三、四〇〇	一一三、七〇〇
增加率	三割	一三割

表中「四・五米乃至三米」とは四・五米の劃一的幅員に據る爲に著しく努力資材を要する區間ある場合短小巨離に限りこれを三米まで縮小し得る事にしたものである、但し三米の場合は全幅員が有効に働く様に考慮が拂はれてある。

この表に明かな如く本地形の如き場合は道路幅員と工費若くは努力費とが比例せぬ事は云ふまでもないが所謂「四・五米乃至三

米」を採用すれば勞力費の節減差率が著しく増大する事を知る、全幅員五・五米といひ、四・五米といひ又三米といひ何れも待避所を設くる事により一車線に違ひはない、そこで本路線の改良幅員は「四・五米乃至三米」が採用せられてある、後日單に擴幅する事のみにより有效幅員四・五米となし得る様に線形は吟味してある事は勿論である。

その他地形地質により全幅員四・五米或は五・五米を採用しても比較的勞力費の増加率が僅少な場合は夫々その幅員として運搬力の増強を期してゐる。

(六) 豫算關係

「この非常時には道路の改良費は遠慮して貰ひ度い其の代り戦後は云々」といふ事をこゝ數年來各方面でよく耳にした、實際自分も財務當局から直接、斯くの如き言を聞いた事もあつた。誠に非常時を認識しない奇怪な意見である、いついかなる世にも道路の改良を一時たりとも等閑に附するは迂濶千萬な事でなければならぬ、増産を眞剣に考へた時に道路の改良が伴はぬ理がない、本事業は實は切ば詰つて道を發見した形である。吾々も過ぎたるを追はず一意奉公の誠を盡さねばならぬ。

趣からざる事業費を一時に支出する爲には勿論縣債に俟たねばならぬ、從來國庫の補助を伴はぬ府縣道改良費の起債は申請するその事が時局認識を缺く謗を受け政府當局より一蹴せられたもの

である、處が今回は林産物搬出府縣道改良費と銘打つて是が非でも起債許可を得むとする財務當局の肚を頼しむと思つてゐる、この鹽梅では起債は恐らく許可になるであらう、然らしめる「時」の力の大きいのに驚かざるを得ない。

今や大東亞戰爭決戦の年を迎へ一億國民が必勝の信念に燃え必死の覺悟が出来た今日戰爭資材の供出に、増産に補助とか獎勵とかいふ助成政策などはピント外れである。如何なる物資といへども國家の要請とあらば供出も増産も決して躊躇するものはないがこれを運搬する道路がなければ如何とも致し難い、折角の必須物資を手を持ちながら國家のお役にたてる事が叶はず只徒に心ばかり急るに過ぎない、これが現在の實情でありこの實情は月の經過と共に深刻になつてゆくものである、こゝに於て本事業を斷行し必勝の態勢確立に一步前進せしめたる藤岡長官の着眼は卓見といはねばならぬ。

或る工事監督員は「木材を満載した自動車か幾百臺自分が擔當してゐる道路を陸續として通過した夢を見て快哉を叫んだ途端に眼が覺めた」と云つて笑つた。誠に涙ぐまじき覺悟の程が思ひはかられ道路技術者の美の極であると信ずる、本事業の完成までには種々の困難なる事態がたゞみ寄せて來るに相違ないが、よくこれ等を克服して目的を達成するか否かは今後吾々に課せられた任務である。